1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577500113		
法人名	社会福祉法人 佐波福祉会		
事業所名	グループホーム かじかの里		
所在地	山口市徳地八坂1330番地		
自己評価作成日	平成29年7月25日	評価結果市町受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○「急がない」「急かさない」「一緒にゆっくり」をスローガンにかかげ、少しずつでもできる事を一緒に見つけながら、入居者本位の支援を行います。</p> <p>○自分が住んでいた場所へ行く故郷訪問を行ったり、地域の行事等へ参加したり、地域とのつながりが持てるよう支援しています。</p> <p>○お弁当を持ってピクニックに行ったり、一緒に近所のスーパーで食材を買ったり、できるだけ屋外へ出られるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>食事は利用者の好みを聞いて献立を立てられ、調理専任の職員を中心に、事業所の畑で利用者が育てられた野菜や地元の食材を使用して家庭的な料理を事業所でつくっておられ、利用者は職員と一緒にできることをされながら、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。入居時の利用者の「個人生活記録」や「私のプロフィールシート」などを利用されている他、日々の関わりのなかでの利用者との会話や様子を「ケース記録」に記録されて思いや意向の把握に努めておられます。「ふるさと訪問」として、毎月一人の利用者の自宅周辺や以前住んでいた場所などを訪れられたり、家族の協力を得られて、一時帰宅や外泊、墓参り、寺参り、結婚式や法事への出席など、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしておられます。日々の周辺の散歩や地元のスーパーマーケットでの食材の買い物、季節の花見、足王様のお接待、ショッピングモールでの買い物、回転寿司での外食など、本人の希望を把握されて、家族や外出ボランティアの協力を得られ、戸外に出かけられるように支援しておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミニカンファレンス、各会議の始まりにはかじかの理念(和と安らぎのある生活を支援)を唱和し、その理念を共有している。急がない、せかさない、一緒にゆっくりとした支援に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念と四つの誓い(思いと願いを聞く。意志とプライバシーを大切にする。一緒に食卓を大切にする。育んできた地域との関わりを大切にする。)を事業所内に掲示している。朝の申し送り時や職員会議、ケアプラン作成時等で唱和して、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、夏まつり、故郷訪問、ゆる体操、おいしいおかゆの会、習字教室、五月の会に参加、利用者と顔見知りのボランティアが定期的に来苑している。	利用者は、地域の祭りに参加して、菓子やむすびの接待を受け交流している。法人の夏祭りには、地域の人100人以上の参加があり、利用者は浴衣を着て、盆踊りを踊ったり、屋台(焼きそば、焼き鳥、フランクフルトなど)での飲食を楽しんで、交流している。定期的にボランティア(ゆる体操、読み聞かせ、習字、音楽療法、歌、フラダンス、カラオケ、レクリエーション、外出支援など)の来訪がある。同敷地内にある特別養護老人ホームに来訪の保育園児の遊戯の見学やデイサービスセンターでのハーモニカ演奏や映画鑑賞に出かけて交流している。	・地域との付き合いの工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に一度の広報誌、「とくち苑だより」で地域に発信している。また、「サンデーふれあい会」にて地域の方へ認知症の理解や支援の方法等を伝えた。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各職員が自己評価表を記入し全員が把握している。評価を振り返り具体的な今後の改善策を検討している。	管理者は、職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、まとめている。職員は、自己評価を日々のケアを振り返る機会と捉えている。前回の評価結果を受けて、事業所の理念を再確認して職員間で共有し、理念の実践につなげるように取り組んでいる。	・全職員による自己評価の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の貴重なご意見を聞き、改善、実行につなげている。議事録をもとに、参加していない職員にも周知し意見を求めている。	会議は年6回開催し、事業所の運営状況、ヒヤリハット、事故報告、外部評価、行事予定、行事について報告し、話し合いをしている。地域のメンバーよりヒヤリハット、事故報告についての意見が出ている。事業所から認知症についての学習会の紹介をしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センターと相談しながら、手続きなどの助言をもらったり、利用者に関わるサービスの向上に努めたりしている。	市担当者とは、市支所に出向いたり、電話で相談し助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換したり、困難事例の相談をして助言を得ているなど、関係を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が内部研修などを通し、身体拘束を行ってはいけないことを理解している。言葉による拘束も同様。玄関にはセンサーはついているが、施錠はせず、出られる場合は一緒に付き添うなど対応している。	職員は、研修で身体拘束について学び、理解している。玄関には施錠しないで、外出したい利用者には声かけをして、職員と一緒に出かけている。スピーチロックに気がついた時には、職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を開催し皆で周知している。また、普段から利用者に対する言葉や態度は、注意を払うよう呼び掛けている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修により受講した項目について復命して、必要性を関係者と話し合い役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が約款、重要事項説明書をもとに丁寧に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情受付窓口、また、第三者苦情受付窓口の件を説明している。家族には面会時、電話など意見や要望を聞き運営に反映させている。	苦情相談窓口や第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。面会時、行事参加時、運営推進会議、電話、メール等で、家族からの意見や要望を聞いている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、また、普段の申し送り等で職員からの意見や提案を聞く他、伝達簿を活用して意見を反映させている。	管理者は、職員会議や担当者会議、日々の申し送り等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。日々の気づきや個別ケアに関する要望は「伝達簿」に記録している。職員会議の中で、各担当(物品、研修、感染予防、体調管理、服薬、園外活動)から業務について意見を聞いている。事故などの緊急時の提案や、物品の購入などの意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に目標管理制度による能力開発カードを作成させ年4回の面談を行って、向上心等を育成し、要望等を聴取している。職員の意見を否定せず、まずやってみる事を大切にしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、勤務年数を考慮して外部研修の機会を設けて内部で復命をしている。また、職員会議の際に、自由にテーマを考え発表の場を設けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を回覧し、資料は閲覧できるようにしている。法人研修は、年1回、接遇研修を実施している。内部研修は、年4回、記録の書き方、感染症、身体拘束、嚥下のメカニズムを実施している。「目標管理シート」で年4回(3ヶ月毎)、管理者と面談を行い、職員が自身の課題や自己啓発を行っている。	・計画的な研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市介護サービス提供事業者連絡協議会の部会や研修に参加している。同業者の管理者や職員と交流を持ち意見交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの聞き取りで要望を聞きアセスメントしている。担当していたケアマネからの情報も入手している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や行事への家族の参加などの機会をとらえて相談している。また、電話でも傾聴して信頼を得るよう対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所待ちでの家族の負担軽減のため、他の施設や在宅サービスの説明もしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を主体として考え、できる力を引き出しながら、自分たちは暮らしのパートナーの位置づけで支えていく事を日々職員にも伝えている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も巻き込みながら、利用者本人を共に支えていけるよう、近況報告なども行い関係を築いていっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援ハウス、デイサービス、面会、家族との墓参りやなじみの美容院、一時帰宅(外泊)、手紙、電話の支援等行っている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人 の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。「ふるさと訪問」として、毎月、1名の利用者の自宅周辺や以前住んでいた場所、馴染みの美容院などに出かける支援をしている。一時帰宅や外泊、結婚式への出席、葬儀や法事への出席、墓参り、寺参り、買物、外食など、家族の協力を得て、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、コミュニケーションの場を提供したり、レクリエーションへの参加を促したり、馴染みの関係が築けるよう働きかけている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設内に移動されても、時々様子を見に行き、自分の目の情報と各職員からの情報を照らし合わせながら相談できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人生活史やモニタリング、日々の関わりのなかで記録して職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	入居時の「個人生活史記録」や「私のプロフィールシート」を活用している他、日々の関わりのなかでの利用者との会話や様子などを記録して、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報シートを元に各職員と情報を共有しあい把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段と様子が違うなど、ささいな事にも気づき、ケース記録に残したり、申し送ったりしながら把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制でアセスメントを行い、サービス担当者会議で本人の思いや家族の意向を反映させて介護計画を作成している。	月1回のカンファレンスで、計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心に、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即して介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議での意見を集約して評価、考察している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠かったり、忙しかったりされる時には受診の介助も行っている。できるだけ要望が叶うように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、民生委員、社会福祉協議会の貸出制度を利用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医となっている。受診結果などの情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、定期検診を実施している他、他科受診を含めて家族の協力を得て受診の支援をしている。家族と受診をする際には、利用者の様子を渡したり、口頭で伝えている。受診結果は家族に電話で報告し、職員間では伝達簿で共有している。協力医療機関は、緊急時や夜間対応の協力を得ている。日々の健康管理は介護職員が行い、日中、普段ケアで気になるときには法人の看護師と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護師と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院と連絡を取り情報を収集している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応を説明している。法人関連施設と連携、支援している。	契約時に、本人や家族に重度化した場合に事業所のできる対応について説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聴き、主治医と話し合い、法人関連施設や医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書をもとに改善、対応策を検討している。急変時のマニュアルを作成し周知している。	ヒヤリハットや事故が発生した場合は、対応した職員が管理者に報告し、報告書に発生した状況、内容、当日の職員で話し合った改善策を記録し、法人に提出後回覧している。翌日の申し送りでも報告して情報を共有し、月1回の職員会議で再度、事故防止に向けた話し合いをしている。事故の内容によっては、臨時の職員会議を実施している。職員は救急救命の研修を受けているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人のマニュアルを作成して法人全体で実施している。	年2回、法人全体で、消防署の協力を得て、昼夜の火災、水害を想定した通報訓練、避難経路の確認、避難訓練を、利用者も参加して実施しており、職員は消火器を使って消火訓練をしている。事業所で夜間火災が発生した場合は、敷地内の他施設から宿直者の応援が得られるようにしている。法人でマニュアルを作成し、近くの佐波川の洪水に備えて避難所を建設している他、飲料水や非常食の備蓄をしているなど、法人として地域との連携体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かじかの里の理念「和と安らぎのある生活を支援します」のもと4つの誓いを立ててそれを実践している。	職員は、法人研修で学び、事業所の介護目標である「利用者の意志とプライバシーを大切にすること」を実践しており、利用者一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を傾聴するように心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは本人の意向を最優先させている。しかし、意向のままに支援することにより、生活、機能レベルに支障が生じる場合には代替の働きかけも行う。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に始まり、更衣時には自分で着る服を選んでもらったり、外出する場合はちょっとしたお化粧をしたり、その人らしさが出せるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食ともホーム内で食事を作っている。材料を切ったり、混ぜたり、料理を盛り付けたり、茶碗洗いをしたり、個々のレベルに合わせて一緒に行っている。	食事は、利用者の好みを聞いて献立を立て、三人の調理専任の職員を中心に、事業所の畑で採れた野菜(きゅうり、ピーマン、茄子、トマト、カボチャ、ジャガイモ、サツマイモ、ネギ、豆など)や地元の食材を利用して、三食とも事業所で調理している。利用者は職員と一緒に買い物に行ったり、野菜の下ごしらえ、切る、盛り付け、テーブル拭き、配膳、お茶くみ、下膳、食器洗い、食器拭きなど、できることをしている。おやつづくり(クレープ、ホットケーキ、柏餅、団子、饅頭など)、誕生日には本人の好きな献立と手づくりケーキ、季節の行事食(おせち料理、恵方巻き、節句の寿司、そうめん流し、敬老会、クリスマス会など)、事業所のウッドデッキでのおやつ、手づくり弁当持参の花見、外食(回転ずし)など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握は日々行っている。また、定時の水分以外でも、随時水分を促し水分量の確保に努めている。特養の栄養士とも連携をとりカロリー計算やメニュー作成時の助言ももらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。義歯は週1回消毒洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、パッドの使用の軽減に努めている。便秘の場合は医師と相談してスムーズな排泄を心がけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や水分摂取などで排便のサポートを行っている。随時水分を提供できるよう職員の意識も統一している。程度な運動も心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回から3回の入浴を行っている。強制ではなく、本人のタイミングに合わせて入浴してもらっている。14時から17時までの間が入浴時間となっているが、希望があり、対応できるようであればいつでも入浴することができる。	入浴は毎日、14時から17時の間可能で、利用者の希望や状態に合わせて、週2～3回は入浴できるように支援している。ゆず湯や入浴剤を使って香りを楽しむなど入浴が楽しめるようにしている。入浴したくない利用者には、時間を変えたり、職員を代えて対応している。利用者の状態により、清拭やシャワー浴、足浴、部分浴などの入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に読書をしたり、日記を書いたり、テレビを観たり等、その方の習慣を大切にして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルをもとに配薬ができるようにケースを設置、職員が管理している。誤薬、誤配を防ぐようシートを使用しながらその都度確認を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや日常生活作業、利用者1人1人にあった活躍のできる場面を多くつくり張り合いがもてるように支援している。	居室の掃除(箒で掃く、掃除機をかける、モップがけ)、シーツ交換、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物の片づけ、畑仕事(種まき、水やり、草取り、収穫)、おやつづくり、食事の下ごしらえ、盛り付け、配膳、お茶くみ、下膳、食器洗い、食器拭き、テーブル拭き、習字、写経、日記をつける、テレビ視聴、雑誌を読む、音楽を聴く、歌を歌う、ボール遊び、かるた、トランプ、福笑い、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙、カレンダーづくり、ラジオ体操、ゆる体操、口腔体操、計算ドリル、漢字ドリル、間違いさがしなど、利用者にとって張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの店への買い出しに一緒に行ったり、外食へ行ったり、少人数で数回に分けたりしながら行っている。大きい外出はバスを使用したり車の台数を増やしたりして皆で出かける。	周辺や苑内の散歩、地元のスーパーマーケットでの食材の買い物、季節の花見(徳佐八幡宮の桜、防府天満宮の梅、大原湖の紅葉)、初詣、道の駅、重源の里、足王様、ソフトクリームの専門店、ショッピングモール、外食(回転寿司など)、「ふるさと訪問」として利用者の馴染みのある場所への外出、一時帰宅、外泊、結婚手記や葬儀、法事への出席、墓参り、寺参りなど、外出ボランティアや家族の協力を得て、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かっている。必要なものを頼まれたら買い物している。出納簿を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を聴き職員が支援している。代筆を行う場合もある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内外ともに季節を感じていただいたり、落ち着いて寛げるよう、設えには配慮している。常に花のある華やかな空間づくりを行っている。	事業所中央にある居間兼食堂は、天井が高く、掃出し窓からは直接ウッドデッキに出ることができ、自然の光が入って明るく、風通しが良い。台所は対面式で利用者や職員が数人で調理できるような広さがあり、調理の音や匂いがして生活感がある。居間や廊下には机やいす、ソファが配置してあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には、行事の時の写真や利用者の作品(習字、ぬり絵等)が飾っており、季節の花も生けてある。温度、湿度、換気に配慮して利用者が居心地良く過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、テーブルの配置を考えたり、環境を整えている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスなど、使い慣れた好みの家具、写真、手づくりの品など我が家に近い空間作りを行っている。	ベッド、籐の椅子、整理ダンス、テレビ、衣装かけなど、利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や手づくりカレンダーを飾って、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施錠を行わず、危険な場所には貼り紙をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームかじかの里

作成日: 平成 29 年 12 月 24 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議については順調に行っているが地域住民の拡大が望まれる。	マンネリ化を防ぐ。	運営や取り組みの理解を進めるために構成メンバー選出を検討する。	1年
2	15	事故、ヒヤリハットに対して職員の認識に差がある。	全職員が常に危機感を持ち支援する。	生活の中で事故防止策を検討し、全職員で共有する。 利用者の状態を把握し危険予知能力を養う。	6ヶ月
3	3	全職員が外部評価の意義、理解に対して共有できていない。	外部評価の意義を新人職員及び全職員で共有理解して支援に活かす。	個々職員が自己評価を行い、他職員の評価に目をとおり自己啓発につなげる。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。